

全酪連会報 5

2021 MAY No.668

酪農とのかけはし/
大阪府立農芸高等学校 資源動物科

日本酪農見て歩紀/
五十嵐牧場(青森県六ヶ所村)

酪農トピックス/
千葉県牛乳普及協会が千葉都市モノレールの車体に
ラッピング広告を実施!(東京)



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

ZENRAKUREN

酪農との かけはし



魅力あふれる3つの学科

今年で創立104年を迎える大阪府立農芸高等学校（以下農芸高校）は大阪の街中に約90,000㎡の敷地面積を持ち、畜舎や畑、食品加工場、実験施設などで生徒たちは日々実習に励んでいます。

生徒たちは入学したそれぞれの学科で、命や自然の尊さ、学ぶこと、働くことの大切さを身に付けることができます。

＜魅力あふれる3つの学科＞

●資源動物科：動物の飼養管理、農

畜産物の販売や乳加工、動物介在教育などを通して、ヒトと動物と環境を調和できるクリエイターを育てる。

●食品加工科：学校内外で採れた農作物の加工、製菓・製パン、食品の栄養・衛生管理などを通して、食ビジネスのプロデューサーを育てる。

●ハイテク農芸科：野菜・果樹・草花などの栽培・販売、植物バイオテクノロジーなどの先端技術、トラクターなどの農業機械実習などを通して、食と緑のスペシャリストを育てる。



▲校門と畑
立派な校門は創立100周年記念でリニューアル
奥に広がる畑は実習で使用する校地です



▲サイロと牛舎
学校のシンボルマークのタワーサイロと牛舎
現在サイロは使用していないようです

第31回 大阪府立農芸高等学校 資源動物科

大阪の高校からつながる 酪農とのかけはし

大阪府立農芸高等学校 資源動物科

土肥 正毅 先生

（大阪府堺市美原区北余部595-1）

大阪府立農芸高等学校 資源動物科

2・3年生のある1日のタイムテーブル

8:35 ▶	登校・朝礼
8:45 ▶	
8:50 ▶	管理実習 (1校時、クラスごとに 日替わりで担当)
9:40 ▶	
9:50 ▶	授業 (2~6校時)
15:15 ▶	
15:40 ▶	管理実習 (専攻ごとに分かれて行う)
17:00 ▶	帰宅

朝の搾乳やお盆、年末年始などは技能員さんが作業しているそうです。



▲先生と1年生と技能員さん
左から4番目が土肥先生、3年生は卒業、2年生は修学旅行の為、この日は1年生が当番でした

大阪で唯一牛を飼養する高校

そんな特色のある農芸高校は、大阪で唯一牛を飼養している高校です。乳牛以外にも肥育牛・豚・鶏、アルパカやヤギ、ヒツジや合鴨、小動物なども生徒を中心に飼養されています。

施設は対尻式のつなぎ牛舎で、MAX14頭をパイプライン搾乳できます。(取材当初は搾乳牛9頭でした。)ホルスタイン種をメインに最近ジャージー種の搾乳も開始したそうです。自家産で育成しているホルメスやF1の肥育牛は、運動場が併設されているパドック舎で飼養しています。また、4反ほどの採草地ではイタリアンライグラスやローズグラスなどを栽培し、サイ

レージにして飼料の一部を賄っているとのこと。

資源動物科の酪農を専攻した生徒たちは、これらのフィールドで日々管理実習を行います。他にも、酪農教育ファームや6次産業化を通じた食育活動、飼料作物栽培やエコフィード、堆肥の製造などを行い資源循環型酪農などにも取り組んでいます。

資源動物科に入学した1年生の教育課程は、普通科目が6割を占め、専門科目では農作物の基本的な栽培方法や、牛・豚・鶏の基礎、情報処理について学びます。実習では飼養管理を経験し、自分がより深く学びたい専攻(酪農、養豚、ふれあい動物、総合環境)を決定します。

2年生も普通科目は6割あります



▲搾乳指導する先生
もうすぐ搾乳実習に入る1年生に向けて指導しています
緊張感が伝わりました

が、農畜産のより専門的な分野を学習します。実習や課題研究では、自分が選択した専攻に分かれ、時には実践を交えて学びを深めます。
3年生になると、普通科目は5割程になり、農畜産の専門知識や最新技術を身に付けていきます。

熱心な生徒とそれに応える先生

① 酪農を学ぶ生徒はほとんどが 非農家?!

農芸高校の一番の特徴ではないか



と思う点は、非農家の生徒がほとんどだという点だと思えます。過去15年ほどで家が酪農家である生徒が在籍していたことはないそうです。生徒のほとんどは、動物が好きで資源動物科に入学し、憧れや実習を通して牛に興味を持ち、酪農専攻を選択するようです。生徒の中には、通学時間が片道2時間以上かかることも



▲ 生徒手作りの名号ボード
生まれた牛には生徒自ら案を出し合って名前を付けているそうです

珍しくありません。それでも、動物や牛が好きという熱意で卒業まで通学することができるそうです。そんな生徒たちが実習に取り組む姿勢はとて熱心で、教える先生も熱が入るとのことです。

(2) 牛に魅了された先生

牛について教える先生自身も、牛と触れ合うのは農芸高校に赴任して初めてだったそうです。牛の大きさにただただ圧倒され、いい意味でも悪い意味でも参考書通りにならない飼養管理に翻弄され、酪農の大変さ、面白さを知ったとのこと。

飼養管理の大部分は先生が担当しており、教員という傍ら酪農家のようです。乳房炎の多発や繁殖成績の低迷に悩んだ時期もあり、時には、牛に没頭しすぎて本職を見失いそうになることもあるのだそうです。高校での体験を通じて、生徒にも酪農の大変さ、面白さを伝えたいと先生は語ります。

(3) 熱意に応える牛

動物や牛が好きで熱心に牛舎へ通う生徒、酪農の魅力を感じたい先生の熱意に牛たちは応えてくれるといいいます。牛は教科書通りにならないということも教えてくれます。病気になった時は乳量の減少など経済的な損失が出ます。そのような損失を防ぐためにも、病気を予防するための飼養管理を学ぶことができるのです。動物を相手にしているからこそ、より熱心になれるそうです。感受性が豊かな時期の高校生は、いきものに触れて感じるものも多いと思います。

日々の飼養管理では、些細なミスや見過ごしが重大な損失につながる事もあります。どうすれば病気や事故を防ぐことができるか、生徒が考えて行動できるよう先生は指導しているとのことでした。そして、生徒は柔軟な発想と、日々の変化に気づくことのできる人材に成長してくれることを願っているそうです。

酪農業界に向けて

先生は希望する生徒へ、酪農家へインターンシップの紹介を行っています。実際に酪農現場を体験することで、非農家の生徒が酪農業界へ進



▲ 用意された餌バケツ
大人数が管理をする為、誰が作業しても分かるよう各所に工夫が見られました

全国の酪農家に一言!

生徒たちは決して即戦力ではなくとも、熱意をもって酪農業界に進出できる人材だと思います。私たちは酪農家さん程ではありませんが、酪農の苦勞や楽しさを教えることに努めていきたいと考えています。これからも、酪農の魅力を、熱意をもって生徒に伝え、これからも「酪農とのかけはし」になりたいです。

出するかけはしになればいいなという思いがあるそうです。実際に、インターンシップを通して就職する人や、より学びを深めようと進学し酪農業界に関わる人もいます。これらはまさしく『酪農とのかけはし』と呼べるでしょう!』とのことでした。

大阪支所 松崎なつみ



▲ 五十嵐泰士さん

五十嵐牧場 青森県六ヶ所村

酪農はだれにでもできる産業であってほしい



地域の紹介

今回取材させていただいた五十嵐牧場は、ゆうき青森農業協同組合（乙部輝雄代表理事組合長）に所属し、青森県上北郡六ヶ所村に在ります。六ヶ所村は、下北半島の南東部に位置し、村の東部の多くは太平洋に面しています。村の歴史には、明治の町村制施行で6つの村が集まってできたと記されています。

主な村の産業としては、まず農業・畜産業が挙げられます。春から夏にかけて海から冷たく湿った風やマセが吹くこともあり、長芋や馬鈴薯、ごぼう、大根、人参など根菜類の栽培が盛んな一方で、安定した収入を得るため戦後開拓の早い段階で乳牛が導入され、一大酪農地帯が形成されました。現在は、和牛やF1などの飼育も行われています。また、暖流と寒流が交わる六ヶ所

五十嵐牧場の歴史

村近海は、魚介類の好漁場で漁業も盛んです。六ヶ所村の良いところは、野菜や肉、魚など食べ物が美味しいところです。村内には国の政策もあつて核燃料サイクル工場やその関係で住宅などが建設されています。なだらかな丘陵地帯を車で走って行くと、突如として別世界のような街や工場群などが出現します。

今回は経営主の五十嵐泰士さん（45歳）にお話を伺いました。お祖父さんは山形県庄内地方の出身で、昭和22年に入植されました。泰士さんもその当時のことを調べてみたのですが、家畜や機械・機具を持たず、鋤一本で原野を切り開いていったとのこと、筆舌に尽くしがたいものがあったようです。六ヶ所村芋ヶ崎地区への入植でしたが、メイン道路が

▼ ロボット搾乳中



ら個々の酪農家さんが立ち並ぶ支線の道路入り口には、庄内1から庄内5まで看板が立っています。
五十嵐牧場は68年前にお祖父さんが乳牛を導入し酪農が始まりました。ご両親の代には徐々に規模拡大されて、平成元年にはフリーストール、フリーバーンの牛舎を建設、3頭ダブルのパララーを設置されました。
泰士さんは、東京の大学に進学し卒業後5年間東京で会社勤めをされました。郷里に戻って五十嵐



▲ ロボット搾乳牛舎

牧場3代目とされましたが、酪農をしたくて帰ってきた訳ではないので、東京での過酷な電車通勤がどうしても続けられないと思ったからだそうです。就農して16年目、平成24年にはロボット搾乳牛舎を増設し規模拡大しました。

現在の経営概況

訪問時の飼養頭数は、経産牛136頭、育成牛は子牛も含めて99頭です。この他受精卵移植で生まれた和牛子

牛が数頭いました。自給飼料の面積は合計で30haあり、そのうち20haの作業を(株)デイリースポート吹越というTMR会社へ委託しています。

経産牛は、第1牛群と第2牛群に分けて管理されています。第1牛群は、搾乳ロボットを設置した牛舎で飼養されています。フリーストールの牛舎には、スクレーパーが設置されているほか、スラリータンク、固液分離機が併設されています。第2牛群は、フリーストール、フリーバーン、パララー

の旧牛舎で管理されています。このほか育成牛・乾乳牛の牛舎や哺育牛の牛舎などが完備されています。作業としては、泰士さんがロボット搾乳牛舎の管理、飼料給与など飼養管理全般、人工授精、記帳等を担当しています。奥さんは勤めに出ており、酪農には携わってはいません。ご両親は哺育牛を担当されており、日々の観察と培ってきた経験で1頭ごとに丁寧に管理されているそうで

作業としては、泰士さんがロボット搾乳牛舎の管理、飼料給与など飼養管理全般、人工授精、記帳等を担当しています。



▲ 第1牛群ロボット搾乳牛舎内部

す。そして従業員の方が2人、アルバイトの方が1人おられ、第2牛群の搾乳をメインとして担当しています。

経営の特長

飼養管理においては、TMR施設(株)デイリースポート吹越から発酵TMR飼料を購入しています。このTMRをベースとして、自家産牧草サイレージや配合飼料、購入乾草



▲ 発酵TMR飼料

等をミキサーで混合し給与されています。(株)デイリーサポート吹越は五十嵐牧場の草地、飼料畑の作業委託をしています。

そして「何と言っても種付けが酪農の全てのスタート。種がとまらなければ始まらない。」と仰っていましたが、免許を取って自分で授精すれば経費削減にもなるだろうと、すべて泰士さんご自身が授精を行っているということ。分娩後70日くらいまでに発情がこなかったら獣医さんに見てもらっています。150日くらいまでにとまれば良しとされており、自身の目でしっかりと確認しながら、あまり力まず自然体で考えられています。

また、五十嵐牧場は、全酪連のDMS（酪農家経営管理支援システム）に平成23年7月から加入されています。大学を出てサラリーマンとなり、酪農のことは全くわからなかった自分が、経営を理解することができるこんなに便利なソフトがあるのかと、即座に加入したそうです。おかげで経営状況が把握でき、役に立っているとのこと。

今後の構想など

まず自身の経営としては、旧牛舎を更新し、新たに建築する牛舎にも搾乳ロボットを導入を検討されています。働く人の人数や熟練度に左右されない酪農経営にしていきたいと考えてのことだそうです。

そして酪農を産業として考えた場合、「後継者や労働力の問題で酪農が衰退してしまうのはとても寂しいこと。」たとえば、娘さん1人であってもできる酪農もあるはずだし、酪農はそういう産業であってほしい。」と語っておられました。これは、サラリーマンを経験して酪農に就農し、感じておられる感覚的なものではないかと思われま。他の産業にはない酪農の特別な魅力をご存じだ



▲ ペンで管理されている子牛

からこそ、だれにでもできる普通の産業であってほしいという気持ちが伝わってきました。

そういった中で考えていることは、外部化、いわゆるアウトソーシングです。地域で組織を立ち上げて、あるいは農協であってもよいですが、管理や作業の委託を利用して行きたいと語っていました。また、そういったものが、誰にでもできる酪農に繋がると判断していて、既に飼料の面では、(株)デイリーサポート吹越を利用されています。現在14戸の酪農家が利用しており、酪農家から預かった飼料畑約200ha、草地約

200haから自給飼料を生産し、これを主体に発酵TMRを製造・販売しています。

そして現在構想されていることは、地域で運営する子牛の哺育センター設立とのこと。現状は五十嵐牧場ともう1戸の牧場と2戸での構想になっています。

管理や作業を外部委託すると当然利用料等が発生し、それを支払いでできることが大前提となりますが、その分経産牛の管理をしっかり行って生産性を上げることが重要と語っておられました。牧場個々の労働力のことを考えると、飼料生産・製造、糞尿処理、子牛哺育、育成牛預託などの組織や施設が必要になってくるように思われます。

終わりに

お忙しいところ取材にご協力いただき感謝申し上げます。経営者としてのしっかりとした感覚や意見がひしひしと感じられて、とても参考になるとともに刺激にもなりました。五十嵐牧場のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈りするとともに、地域の酪農のますますのご発展をお祈りいたします。

東京
支所発千葉県牛乳普及協会が千葉都市モノレールの
車体にラッピング広告を実施！

昨年4月の緊急事態宣言により、学校給食の停止や相次ぐ商業施設の休業等によって乳製品の消費減少が心配される中、農林水産省のプラスワンプロジェクトが功を奏し、生乳を廃棄することなくコロナ禍を乗り切ることができました。

これを受けて、千葉県牛乳普及協会が消費者に対するお礼と、引続き牛乳消費への協力依頼についての普及啓発広告として千葉市内を走る千葉都市モノレールの車体（0形）にミルクジャパンのキャラクターや千

葉県酪農農業協同組合連合会のマーク等を入れこみ、モノレール車両全体にラッピングを施した車両の運行の実施をしています。（K.K）

開催日：令和3年4月1日(木)～令和6年3月末予定

開催場所：千葉都市モノレール

1号線：千葉みなと駅～県庁前駅

2号線：千葉駅～千城台駅



原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

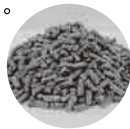
DCAD・ルーメンpH調整飼料

重曹等には、ルーメンのpHを調整するだけでなく
搾乳牛へのDCAD調整飼料という役割もあります。

製品ラインナップ

ゼンラク重曹[®]ペレット

- 重曹を60%含有し、嗜好性に優れたペレットタイプ。
- 分離給与でも無駄が無く、最小投資でルーメンpHの調整が可能です。

20kg
紙袋入りゼンラク重曹[®]

- 炭酸水素ナトリウム(重曹)を99%以上含有したマッシュ製品。
- TMRや自家配に最適な経済的製品。

20kg
紙袋入り

デイリーMGソーダ

- 重曹50%、酸化マグネシウム13%を混合しました。
- 優れた嗜好性のペレットタイプ。高泌乳牛群に最適です。

20kg
紙袋入り

デイリー・マグ

- 海水から精製した吸収性の高い酸化マグネシウム。顆粒タイプ。
- TMRや自家配に、ゼンラク重曹と併用して効果を発揮します。

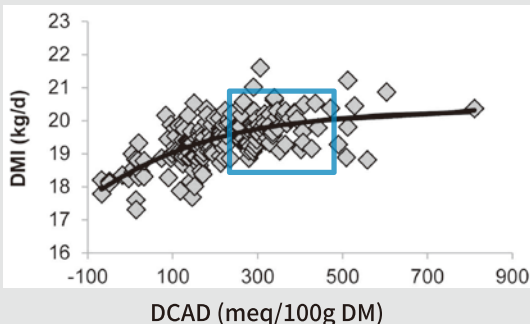
10kg
紙袋入り

全酪連の重曹で、手軽にDCAD調整が出来ます！

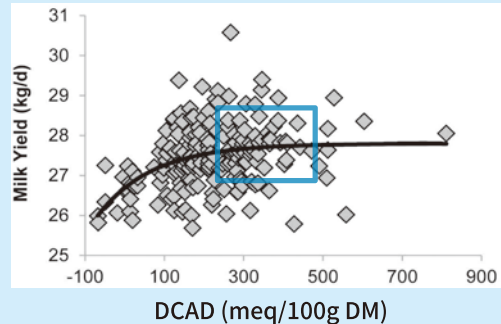
飼料摂取量と乳生産を最大化させるためには、DCADは250~400mEq/kg DMが適正という報告があります。

Iwaniuk, M. E. and Erdman, R. A., 2015. J. Dairy Sci., 98:8973-8985

メタ解析における 乾物摂取量 kg/日



メタ解析における 乳量 kg/日



お問い合わせ先

札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368
根室駐在員事務所 01537(6)1877

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(226)6851
栃木事務所 028(689)2871

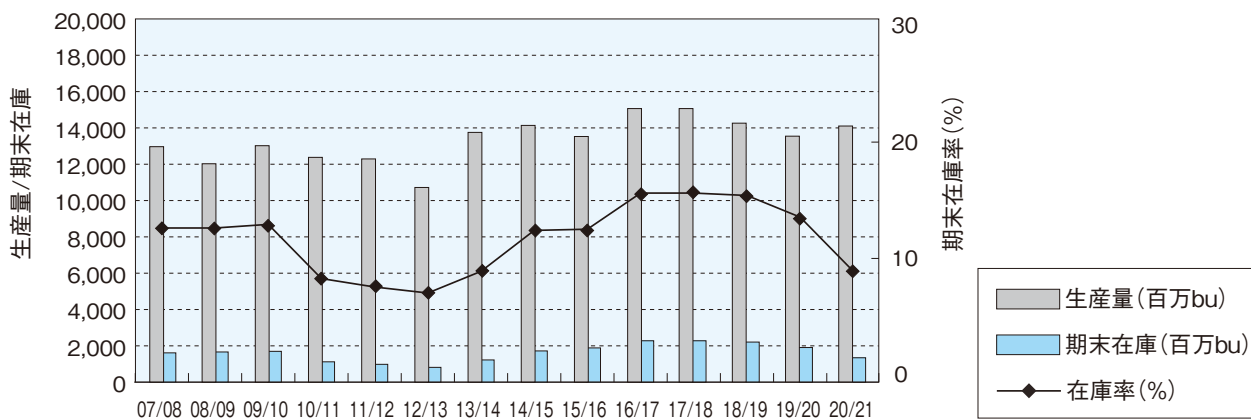
名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 0868(54)7469
近畿事務所 0794(62)5441
三次事務所 0824(68)2133

福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006

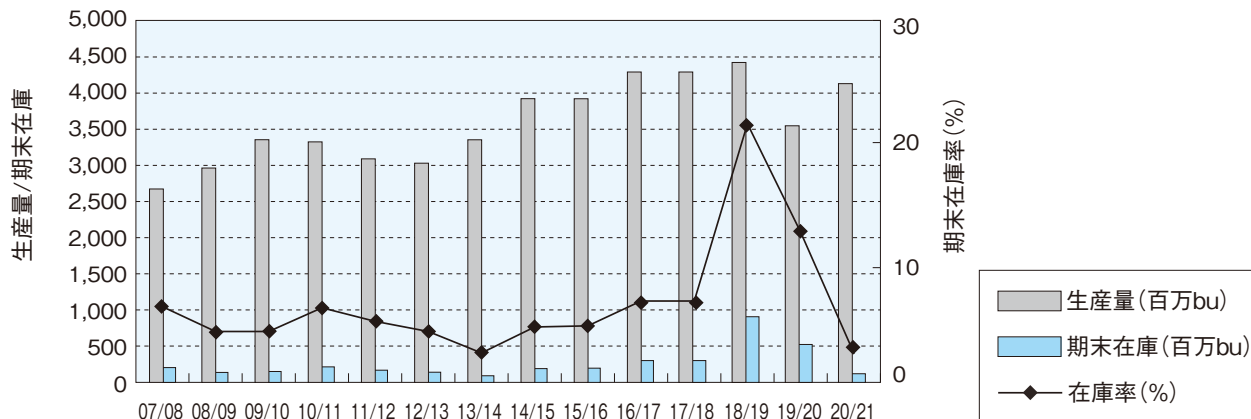


		19/20年産	20/21年産
4月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	89.7	90.8
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	167.5	172.0
	生 産 量 (ブッシェル)	136億2,000万	141億8,200万
	需 要 量 (ブッシェル)	139億6,300万	147億7,500万
	期末在庫 (ブッシェル)	19億1,900万	13億5,200万
	在 庫 率	13.7%	9.2%
トウモロコシ 相場動向	3/31に発表された米国作付意向面積は事前予想を大きく下回る内容となり、シカゴ相場は大きく上昇。前年対比作付増加が予想されているノースダコタ州は現在、土壌水分が大幅に不足しており、生育不良懸念が残っている。故にシカゴ相場は堅調に推移しており600¢まで届こうとする状況。今後は作付状況や米国及び南米の天候状態がシカゴ相場を左右することが見込まれる。		
大豆粕相場動向	中国向けブラジル産大豆が順調に出航しはじめ、中国の米国産大豆の買付が落ち着きつつあるものの、日本向け中国産大豆粕は近海船フレート上昇や船積遅延により価格は高止まりしている。国産大豆粕は、大豆油の搾油量が引続き低調で、また、原料輸入大豆価格が高止まりしていることから強気の相場展開となっている。		
糖 類	<p>【一般フスマ】 小麦粉の生産が引続き低調で、輸入ふすまの使用や配合割合調整が行われている。4-6月は値上げとなったものの、他の糖類も軒並み値上げとなっていることから需給バランスの解消には当面時間を要することが見込まれる。</p> <p>【グルテンフィード】 国産は例年と比較して稼働は低調であるが、発生期ということもあり需給は安定している。中国産価格は高止まりしており価格競争力がない状況となっている。</p>		
海上運賃	中国向け鉄鉱石の需要の増加によりケープ船需給が引き締まり、連れてパナマックス船も引っ張られていることから相場は漸増している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和3年4月

<p>北米コンテナ船情勢</p>	<p>PSWのロサンゼルス・ロングビーチ港では現在も25隻近いコンテナ船が沖合で滞船しており、衰えないアジアからの輸入貨物の増加がターミナルの保管スペースを逼迫させ荷役効率を落としています。直近ではロサンゼルス港から出港する日本向けの本船は沖合到着後、滞船を経て出港までに20日前後の時間を要しており大幅なスケジュールの遅延が続いています。またロングビーチ港から発表があった2月の輸出向け取り扱いコンテナのうち空コンテナの回漕率は昨年2月が51%であったのに対し、今年2月は69%と引き続き多くのコンテナがアジアやヨーロッパ向けに回漕されている状況です。このため、いまだに船腹確保は難しい状態です。PNWのシアトル・タコマ出しについては大きなスケジュール遅延の要因となっていた経由地バンクーバー港での滞船は天候が穏やかになり始め、直近では5日ほどの滞船となっています。しかしシアトル・タコマ港でのターミナルの混雑と逼迫した船腹の状況は相変わらずで不安定な船積みが続いています。多くの船会社で3月及び4月のGRI（海上運賃一斉値上げ）を実施しており、海上運賃が上昇しています。船社によっては5月もGRIをアナウンスしており1コンテナあたり\$100～\$200程度の更なる海上運賃上昇が見込まれております。また一部の船会社では、コンテナの長期滞留を防ぐためデマレージやディテンションのフリータイムを短縮する動きを見せており、輸入牧草を取り巻く環境はより一層厳しくなっています。</p>
<p>ビートパルプ</p>	<p>【米国产】 20-21年産は各産地、冷涼な気候のなかビートの保管状況は良好で順調に砂糖の製造が進められています。ミシガン州では3月中旬に製糖作業が終了しています。ノースダコタ州ミンダック地区でも例年よりも順調に製造が進み4月下旬までに製造を終了する予定です。クリスタル地区では4月中旬に、ミネソタ州サザンミネソタ地区では5月中旬頃にそれぞれ製造を終了する予定です。産地では4月に入り気温が上がっており、21-22年産の作付け準備が進められています。各地で作付面積の微増減はあるものの、概ね昨年並みになることが見込まれています。</p>
<p>アルファルファ</p>	<p>【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは21年産の作付面積は昨年並みと予想されています。このまま順調な生育が続けば1番刈の収穫作業は、南部で5月上旬から開始されます。産地にある20年産上級品在庫はほぼ成約済みとなっていますが、低級品は若干の供給余力があります。トウモロコシと大豆の相場が良いため、1番刈の価格次第では、2番刈の収穫は行わず、大豆やトウモロコシへ転作される可能性があります。</p> <div data-bbox="1117 750 1324 884" data-label="Image"></div> <p>◀ 3月末撮影 コロンビアベースン パスコ周辺</p> <p>【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。見た目は綺麗で、色の鮮やかな上級品が発生しており、内需及び中国、中東に向けた買付が輸出業者によって行われています。トウモロコシの相場が高いため、内需の酪農家によっては飼料中のアルファルファ給与割合を増やしているため国内需要は旺盛で、去年と比べ高い価格水準で取引されています。カリフォルニア州北部では、4月上旬から1番刈の収穫が開始される予定です。</p>
<p>チモシー</p>	<p>【米国产】 20年産は発生量が限定的であった上級品の相場は高騰したものの、発生の中心となった中～低級品は相場低迷したまま現在も推移していることから21年産の作付面積は昨年並みから輪作の関係で微増になると予想されています。</p> <p>【カナダ産】 ターミナルへのコンテナ搬入の締切日変更や、確保していた船腹予約の取り消しが頻発しており、輸出業者は対応に追われています。既存オーダーが予定通り出荷できていないため、トラックの確保に苦慮し製造スケジュールも逼迫しています。輸出業者によっては、各顧客向けに1週間ごとの出荷制限を設けるなど対応しています。</p>
<p>スーダングラス</p>	<p>多くの生産者で早播きスーダンの播種を開始しています。産地灌漑当局発表によると4月1日時点での作付面積は天候不順で播種の進捗が悪かった昨年同期比では127%の13,773エーカーと2,942エーカー増加していますが、過去5年平均の作付面積である、およそ17,000エーカーに比べると低い水準です。現在も早播きスーダンの播種作業は続けられているため、今後の作付面積に注視が必要です。一方で産地では人件費や、燃料、肥料などの資材費用が上昇し生産コストを押し上げており、新穀相場への影響が懸念されています。</p>
<p>クレイングラス</p>	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>産地灌漑当局発表によると4月1日時点での作付面積は19,683エーカーと昨年同期比89%の作付けとなっています。20年産の取引価格が他の作物に比べ魅力的でなかったことから換金性の高い他の作物へ転作されています。現在産地では多くのクレイングラスの圃場で水入れが開始されています。春先が冷涼な気候であったため、生育が遅れており1番刈の収穫は例年よりも遅い、4月後半から開始される見込みです。</p> <div data-bbox="933 1422 1444 1624" data-label="Figure"> <p>クレイングラス作付面積推移</p> <p>エーカー</p> <p>2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年</p> <p>(クレイングラス作付面積推移 出典：インペリアル灌漑局)</p> </div>
<p>ストロー類</p>	<p>ペレニアル種ライグラスストローについては年明け以降、産地における余剰在庫は限られており産地相場は上昇しています。十分に在庫を確保できていなかった輸出業者の買付コストは上昇しており、直近のオファーは輸出業者の買付ポジションにより差が出ています。</p>
<p>オーツハイ</p>	<p>【蒙州産】 3月24日～26日にかけてタグボート（本船の港到着後にターミナルへの接岸を誘導、補助する曳船）を運営するSvitzer社が西蒙州フリーマントル港を除く各港でストライキを行いました。一部の本船でターミナル寄港できなかったため数日の遅延が発生しています。全蒙的に不安定な船積みが続いており、多くの本船で2～3週間の遅延が発生しています。また引き続き船腹は逼迫しているため、輸出業者は船腹の確保に苦慮しており、海上運賃が高く普段敬遠するような船社も活用し船腹確保に努めている状況です。</p>
<p>中国向けの輸出について</p>	<p>中国政府はこれまで蒙州全域の牧草加工工場28か所に対し中国への輸出を認可していました。しかしながら今年2月末に25か所の工場で輸出許可が期限切れとなり、多くの輸出業者で3月以降中国向け輸出が滞っています。輸出許可を更新するために各輸出業者は6ヶ月以上も前から中国当局に申請を行っていましたが、蒙州はコロナウイルス感染拡大を受け昨年3月より外国渡航者に対し入国制限を掛けているため、中国当局が訪蒙し直接的な現地視察ができない状況となっています。この結果、25の牧草輸出工場で輸出許可が更新されず失効となっています。蒙州農務省はGACC（中華人民共和国海関総署）と更新方法について協議を行っていますが進展は見られない状況です。蒙州、中国とのあいだで、緊張した政治関係が続く中、産地の生産者は今後オーツハイの需要が弱まることを懸念し21年産で何を作付けするか、頭を悩ます時期が続いています。</p>

作品募集のお知らせ

第47回 らくのう 子どもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさは自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和3年5月31日（月）（当日消印有効）

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第49回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 4点
 - ・秀作 若干
 - ・ファミリー賞 若干
（牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます）
 - ・あすなる賞 若干
（小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます）
- ◎入賞者には記念品を贈呈いたします。
◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第46回 特選
「なが〜い舌でお食事中」
田尻 琉太郎さん

第11回 酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

① テーマ

- ①「乳牛のいる風景」
 - ②「酪農作業風景」
- ※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

③ 応募資格 酪農家

④ 締切日

令和3年5月31日（月）
（当日消印有効）

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 若干
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）等で使用することがありますのでご了承ください。



第10回 特選
「私の大きな友達」
山川 靖彦さん

提出先一覧

- 北海道酪農青年女性会議
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765
- 東北酪農青年女性会議
〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル3階 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

- 関東甲信越酪農青年女性会議
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011
- 中部酪農青年女性会議
〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

- 西日本酪農青年女性会議
〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196
- 九州酪農青年女性会議
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

乳牛産地情報

令和3年5月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	40~50	⇩	札幌管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で95.7%、苫小牧管内月計で99.1%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分分娩が中心となります。4月の同地域の乳牛市場は上場頭数が多くありましたが、春分挽ということもあり、相場は横這いに推移しました。5月より夏分挽の牛も上場が始まるため、相場はやや弱含みになると予想されます。庭先購買においても同様に、中クラス以上の初妊牛もやや弱含みに推移すると思われる。資源についてはF1腹・雌雄選別腹ともに十分に確保できるものと思われる。また、和牛受精卵移植腹も一定数の上場があります。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	70~80	⇩	
	経産牛	45~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~50	⇩	根釧管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.3%、中標津管内月計で102.5%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月分分娩が中心となります。4月の同地域の乳牛市場が弱含みからやや弱含みでの相場展開となったことから、庭先購買価格も夏分挽となることを踏まえて、やや弱含みとなるものと思われる。腹別ではF1腹、雌雄選別腹は同価格帯、和牛受精卵移植腹は引き合いが強く、本牛・受精卵ともに良いものであれば100万円を超えてくるものと予想されます。初妊牛の動きと合わせて、育成牛や経産牛も同様の動きを見せるものと思われる。
	初妊牛	70~80	⇩	
	経産牛	40~50	⇩	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~50	⇩	帯広管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.5%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分分娩が中心となります。4月管内の乳牛市場は、春分挽の上場が多く、高値を維持しておりました。5月は夏分挽の上場が始まり、弱含みに推移すると予想されます。しかしながら、道内においてメガ・ギガファームの導入は続いており、上クラスの牛につきましては、引き続き高値の相場となることも考えられます。資源についてはF1腹が増加傾向にあり、雌雄選別腹は減少傾向にあると思われる。また、初妊牛の価格の動きにつられて、経産牛の価格もやや軟調な動きで推移するものと思われる。
	初妊牛	72~82	↓	
	経産牛	45~55	⇩	
道北管内	育成牛(10-12月令)	40~50	⇩	道北管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.1%、北見管内では月計で102.3%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分分娩が中心となります。夏分挽となり、資源頭数は前年並み以上いると思われ、需要も落ち着くため、相場は弱含みで推移すると予想されます。雌雄選別腹の需要は一定数あるため、F1腹との差はあまりない状況が続くと思われる。初妊牛同様に、育成牛の需要も落ち着くと予想されるため、やや弱含みで推移すると思われる。即戦力となる経産牛については管内の需要がまだ強く、横這いで推移すると思われる。
	初妊牛	70~80	⇩	
	経産牛	42~52	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	40~50	⇩	道内の4月中旬までの生乳生産量前年比は101.7%の実績となっております。道内、春本番となりよいよ畑作業もスタートする時期となりました。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分分娩中心と夏分挽になるためやや弱含みと見込まれます。腹別での大きな価格差もなく資源状況は安定しています。和牛受精卵移植腹については引き合いが強く高値傾向となっております。育成牛・経産牛とも初妊牛相場同様やや弱含みを見込んでいますが、即戦力の経産牛は道内での需要が高く底堅い相場になると予想されます。令和3年度につきましても、庭先選畜購買で優良な搾乳用素牛を供給して参りますので、購買計画がございましたら弊社担当者までご連絡頂きますよう宜しくお願い致します。
	初妊牛	72~82	⇩	
	経産牛	42~52	⇩	

今月の表紙

今月の表紙は
 鹿児島県 大渡康弘氏
 撮影です。



編集後記

- 早いものでもう5月。
 太陽がまぶしいと感じる日々。紫外線対策が気になる季節となりました。
 そして酪農家の皆様にとっては牧草地や自給飼料畑での作業が本格化する季節です。
- 新型コロナウイルスも変異種が猛威を振るっています。どうぞ体調管理と感染症対策を万全に行い、心地よい緑の季節を満喫しましょう。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和3年5月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 5月号 No.668

● 編集・発行人 白鳥建樹
 ● 発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
 TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連は、酪農生産者のロマンと
消費生活者の安心をつなぐ
スペシャリストとなります。



全国酪農業協同組合連合会（全酪連）